
1 2月25日

オセロ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

12月25日

【Nコード】

N3166B

【作者名】

オセロ

【あらすじ】

元カノとよりを戻したい少年。願いはかなうのか？

「今日、10時からおもしろそうな映画やるぞ！」

『送信完了』

ケータイの画面に映る文字。

30分間頭をフル活動させて考えた文章を彼女に送る。

「知ってる！絶対見るよ！！」

数分後、彼女からの短いメール、それだけで俺は心の底から安心する。

返事が返って来ることをあまり期待していなかったから。

この返事が返って来なかったらあきらめようと思ったから。

また、彼女とのつながりができたと思うと嬉しくなった。

「めちゃくちゃ泣けたあゝ号泣もんだぞー!」

「かわいそすぎだよ!涙止まんない・・・」

1分もしいなで返事が来た。

彼女も自分と同じ気持ちなんだと思うと無性に幸せを感じてしまう
自分でも気持ちわるいと思いながらニヤニヤした顔で布団に入った。

「部活ガンバってるか?」

彼女とは学校が違ったためまぐれでも会うのは難しかった。

送る内容も思い浮かばない、けど何か話したい。

しかたなく意味もないメールを送ってみたが彼女はウザがるだろうか・・・？

「今は、休憩中」。もちろんガンバってるよ！！」

よかった・・・、大丈夫みたいだ。

以前は、メールを送ることにこんなに神経を使わなかったのに

今では、彼女のことを考えるだけで力んでしまう。

ケータイを持つ俺の手は冬なのに汗だくだ。

放課後の教室

「来週の月曜ひま？」

来週の月曜日は、クリスマス当日。

いつも相談にのってくれる親友におされて誘ってみることのした。

でも、なかなか送信ボタンが押せなくて実際に送ったのは夜中の1
2時前後

当然のごとく彼女からの返事は来ない。

この日は一睡もできなかった。

「遅れてゴメン！ー！その日はバイトがあるからダメなんだ・・・。」

「・・・・・・・・・・」

メールが来たのは翌日の夕方。

「バイト終わんの何時ごろ？」

「5時だけど、それがどうかした？」

「じゃあ5時にバイト先まで向かえ行く。まだ同じ所だろ？」

あきらめの悪い俺は、それでも会いたいという意味を込めて返信した。

ついさっきまで、返ってくるのに3分とかからなかったのに

1時間ほどたってからようやく彼女からの返事が届いた。

「いいよ！待てるの外になっちゃうし寒いだろうからー！」

それはくるなっということか・・・？

一文字打つごとに緊張してた自分がむなしくなった。

だがここで引き下がるわけにはいかない。

「大丈夫俺は強いから。絶対行くから店の前で待ってるぞ」

強引に彼女を言いくるめ、無理やり約束を取り付けた。

俺の行動に彼女はあきれたどころか・・・？

終わったとで自己嫌悪、布団に顔を押し付けていろいろ考える。

プレゼントも買い、財布の中もパラダイス

自分なりにオシャレもして、柄にもなく髪をいじって彼女のバイト先へ向かった。

「・・・・・・・・・・」

5時ジャスト1秒の狂いもく到着。

まだ終わってないのか彼女はいない。

小さな喫茶店、大人な渋い空気を感じさせる空気でも俺なんかじゃ入れない。

出入り口付近にある俺の顔一個分くらいの小さい窓。

そこから中をのぞき見る。

客は1人もない、いるのは店長と思われる中年の男が1人。

彼女は・・・？

勇気を出して店内に入ってみた、それでも店長らしき男以外誰もいない。

疑問に思いながらも店を出て彼女にメールしようとケータイを開いた時

混雑したスクランブル交差点の人ごみの中、彼女が見知らぬ男と楽しそうに信号待ちしていた。

思考停止。

なにがなんだか分からない。

走った。

彼女を責めたわけじゃない。

男を殴ったわけじゃない。

俺にはそんな資格ないのだから。

ただ全力で走っただけ。

今まで生きてきてこんなに悔しくて恥ずかしいことがあっただろうか……。

俺は、その場から逃げ出した。

カップルでにぎわう噴水の前、去年は2人でここにいた。

手には彼女へのプレゼント。

握りすぎてシワシワになっている。

出てくる涙を周りに気づかれないように下を向いて

ゴミ箱の中にそれを入れた。

今日は、12月25日、日本中の恋人たちが愛を語る日

俺は、2度目の失恋をした。

（後書き）

恋愛小説は、難しいですね。

途中でなに書いてるか自分でもわからなくなってきました

そろそろ深夜に書くのを止めなくてわ・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3166b/>

12月25日

2010年10月13日12時53分発行